

謝辞

博士学位論文を提出するにあたって、多くの方々のご指導とご助力をいただきました。

主査を引き受けていただきました早稲田大学人間科学部教授 竹中晃二先生に厚く御礼申し上げます。同じ「運動心理学」の枠組みに含まれる研究とはいえ、竹中先生が開拓なさっている行動変容技法や介入研究に、直接的には関連しない研究テーマを遂行させていただいたことに、まず感謝いたします。日本大学文理学部に在籍の折、進学先の決定していなかった私を大学院に導いてくださったことにはじまり、乳飲み子同然であった私を、研究の初歩から修士論文、そして博士学位論文作成まで辛抱強くご指導いただきました。竹中先生とは対照的に、きわめて活動レベルの低い研究生活を送る私を温かく見守り、常に叱咤激励していただいたことは、私にとって何にも替え難い貴重な財産となりました。心より感謝申し上げます。

本論文を提出するにあたり、3名の先生に副査をお願いしてご助言を賜りました。早稲田大学人間科学部教授 春木豊先生には、修士論文の副査を担当していただいた時から、有益なご指摘と心温まる励ましをいただきました。本研究のポジティブな面をシンプルかつ明確に指摘してくださったことに、厚く御礼申し上げます。

早稲田大学人間科学部教授 坂野雄二先生には、明晰かつ厳密に、そして丁寧で温かいご指導をいただきました。坂野先生のご指導により、本研究にいっそう深く取り組むことができました。そして、本論文をより磨き上げることができたと感じております。謹んで感謝申し上げます。

九州大学健康科学センター教授 橋本公雄先生にも、副査を担当してい

ただきました！「一過性運動の心理学的研究」の権威である橋本先生には、本論文に関してのみならず、学会などでお目にかかるたびにアドバイスをいただきました。本研究に取り組めたのは、この分野の先達である橋本先生のおかげです。心より感謝申し上げます。

近畿福祉大学社会福祉学部助教授 堤俊彦先生、東京都老人総合研究所 岡浩一郎先生、ボストン大学教育学部 上地広昭さん、早稲田大学人間総合研究センター助手 中村菜々子先生、早稲田大学大学院身体行動科学研究室の伊藤拓さんには、学術論文執筆の際に共同研究者としてご助言いただきました。本当にありがとうございました。

また、修士論文の副査を務めてくださった早稲田大学人間科学部教授 児玉昌久先生、学部時代に卒業論文をご指導いただいた日本大学文理学部助教授 依田麻子先生、研究実施の際のインフォームド・コンセントについてご教授くださった国立精神神経センター 掛江直子先生、ストレングス・エクササイズについてご教授くださった早稲田大学人間科学部助教授 岡田純一先生にも、心より御礼申し上げます。

博士学位論文を修正するにあたり、分析方法について何度も相談に乗ってくださった松本裕史さんはじめ、身体行動科学研究室の皆様（葦原摩耶子さん、石井登帆子さん、小室啓子さん、中村秀逸君、水谷恵理子さん、村中垂弥さん）と同研究室卒業生の皆様（木下直子さん、小牧久見子さん、近河光伸君、竹本朋代さん、本田譲司さん、松崎千明さん、綾千晶さん、篠田直君、青木真理さん ほか）にも大変お世話になりました。みなさまの日々のご支援がなければ、この論文は完成しませんでした。まことにありがとうございました。

くわえて、実験室を快く貸してくださった早稲田大学人間科学部教授 比企静雄先生、研究の実施にご協力いただいた兵庫県三田市保健センタ

一介護福祉課の皆様，保健師，看護師，運動指導員の皆様にも深謝いたします。

最後に，調査，実験に協力してくださった全ての方々にお礼を申し上げますとともに，私をサポートしてくれた友人・家族にも感謝いたします。

皆様ありがとうございました。

2003年1月9日 身体行動科学研究室にて

荒井弘和